「和歌山市地域子育て支援拠点事業運営業務」事業計画書④

【子育て親子の交流の場の提供と交流の促進（通年）】について

拠点を訪れる親子が居心地よく過ごせる空間になるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

・親子同士の交流が促進されるための工夫

- 月齢の近い子ども同士が交流できるように、親同士の橋渡しをする。
- 毎月イベント行事で簡単な自己紹介する機会を設け、顔見知りになり徐々にスタッフを介さずともお互いに親交を深めていくように見守る。SNS の ID 交換やお互いの家を行き来するまでに親しくなった例もある。
- 利用者同士が交流をし始めた時は、スタッフが子どもの様子を見守るようにし、利用者が安心して交流ができるようにする。

・未就園児を連れた保護者が居心地よく過ごせるような空間作り

- 笑顔で迎え入れ、利用者同士の輪に加われるような声掛けを大切にする。
- 授乳室は周りの利用者を配慮できるスペースを作っている。
- 初めて来所された利用者には、拠点の説明や子どもの話などをしながら緊張をほぐすよう心掛ける。またメッセージカードを送付し、来所のお礼と共に再来所を心待ちにしている旨を伝える。
- 定期的な換気、消毒の徹底をし、安心して過ごせるようにする。

・交流の場に来た子供が楽しく過ごせる空間作り

- 部屋の雰囲気を明るくし、季節を感じられる壁面飾りをする。
- 子どもが不安がるトイレにも壁面飾りを施し、子どもに人気のキャラクターのスリッパや補助便座を用意し、家庭と同様トイレトレーニングを行えるようにしている。
- 季節行事を感じてもらえるよう笹飾り・クリスマスツリー等の設置をおこなう。
- それぞれの遊びが楽しめるように、広いスペースを確保する。
- 発達に応じたおもちゃを設置し、子どもの自発的な遊びを促す。
- 子ども同士が遊び始めた時は、スタッフが見守り、時には遊びの仲立ちとなる。
- 子どもが自分で出し入れがしやすいようにおもちゃの配置を考慮する。
- おもちゃの破損等には十分注意し、けがのない安心して遊べるようにする。

【子育て等に関する相談、援助の実施（通年）】について

子育てだけに限らず様々な悩みを抱える保護者に対して誠意ある対応ができるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

・安心して相談できるような環境づくり

- 利用者との信頼関係を築けるよう日頃よりスタッフの方から声掛けをしていくと共に、気軽に話ができる雰囲気作りを大切にする。
- プライバシーには十分配慮し、利用者の希望により仕切りのあるスペースで対応し、スタッフが子どもを見守る事で母子分離も可能にする。
- 男性の積極的な育児参加も多くなり、子どもと２人でのお出かけ先に拠点施設を選んでくれる事も多くなった。男性も育児・家事に関わる事でジェンダーギャップなど様々な悩みを持っているので、スタッフからコミュニケーションを図る事で相談しやすい雰囲気を心がけている。
- 新型コロナウイルス感染予防の為拠点が休所となった時、電話相談だけでなく、オンラインミーティングアプリ ZOOM を使用して相談を受け付けた。今は対面希望者が多いが、この実績を元に今後も ZOOM を使用したオンライン相談も可能としている。
- インスタグラムのダイレクトメッセージ、公式 LINE での相談も可能としている

・相談対応時の心構えや相談を受けるための姿勢

- スタッフには利用者の守秘義務があり、相談内容も守秘する約束を行う。
- 相談者の話をじっくりと聴き、共感する。否定せず、思いを受けとめるようにする。
- 悩みや相談内容を少しでも和らげられるよう、同じ目線で聴き、寄り添う。
- 相談者が自分の言葉でしっかり話してもらうことを心掛ける。スタッフが結論やアドバイスをするのではなく、相談者が話すことで思考の整理や感情の整理を行うことも大切と考える。その上で相談者にとって有益であろう情報や、専門の相談先等案内をする。

・必要とされる援助等に円滑に結びつけるための体制整備

- スタッフの間で利用者が抱える問題を共有し、意見を出し合い、一番良いと思う対応ができるように話し合う。相談者の悩みをスタッフ１人で抱え込み、悩むことがないように心がけている。
- 利用者の問題解決に向けて継続的に利用者に寄り添う。相談後、相談者の来所が遠のいていると感じられた場合には、電話にて、その後の様子を伺う。
- 保健センター、子ども家庭センター、DV 相談支援センター職員との信頼関係を日頃から築き、情報の共有や連携・協力体制を強化するよう努める。

【地域の子育て関連情報の収集・提供（通年）】について

保護者にとって有用な情報や保護者が求めている情報を、できる限り迅速かつスムーズに提供できるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

・保護者のニーズ把握も含めた情報収集方法

- 市、県、各種団体からの案内、チラシには必ず目を通し、熟知しておく。また、SNS、子育て情報サイトを見る等インターネットからも情報を得ておく。
- 利用者との会話から求めている情報を把握する。
- アンケートを設け、感想や直接言いにくい事も伝える手段を作っている。
- スタッフも子育ての講座、セミナーなどに積極的に参加し、子育てに関する情報を収集し、理解する。

・保護者のニーズ・利便性に添った情報提供方法

- スタッフが情報リテラシーの能力を高め、利用者のニーズに適した正しい情報を精査できるようにする。
- ブログ・インスタグラムの更新で講座最新情報、日々の拠点施設の様子を伝える。
- 利用者の個々の求めや、対象年齢に応じた情報資料を手渡しする。
- 子育てに関するイベントのポスターを掲示する。
- 広報誌を年１回発行し、『和歌山市地域子育て拠点施設もうひとつのさとポピンズ』様子を掲載し、『行ってみたい』と利用者に思ってもらえる内容としている。
- 子育てイベントやセミナーなど子育てに関する資料をファイルに入れ、いつでも利用者が手に取って見ることができる様にする。
- 特に転勤により和歌山市在住となった利用者には、子育てに関することに限らず生活全般の細かな情報等の提供に努めている。毎日子どもを連れて遊びに行けるポピンズ周辺の公園情報提供は、県外・市外からの転入者だけでなく長年市内に在住している方にも好評である。

【子育て及び子育て支援に関する講習等の実施（月１回以上）】について

未就園児を連れて参加する講座としてふさわしく、かつ子育てのヒントになるような講座が実施できるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

・参加のための工夫（内容、時間設定、参加方法等）

- スタッフ主催のイベントは季節に応じた制作や遊びをおこなっている。
- ひとりでも多くの親子が講座に参加できる様予約制は取っておらず、子どもの体調や、家事の捗り具合で利用者が行きたい時に来所し参加できるようにしている。
- 講座のお知らせを貼り出している。
- 人数把握のため予約や申込制を行う場合もある。申込方法は来所時、電話、インスタグラムのダイレクトメッセージ・申込フォームと利用者が何時でも申込やすい方法をとっている。
- 乳児などの講座は３０分程度に設定する。
- 利用者向けのイベント時は、スタッフが子どもを見守り利用者が安心して参加できるようにする。
- 様々な年齢の親子が楽しめる内容の講座を実施する。
- 父子イベントは、土曜日の午後に１時間程度実施している。
- 内容は変わっても同じ講座を毎月行うことで、行けなかったことへの心残りを少なくする。

・講座内容の設定に関する考え方

- 子どもが楽しめるもの
- 利用者向けのもの
- 季節を感じられる親子のスキンシップ、ふれあいができるもの
- 初めての育児の中で子どもとの関わり方がわかるもの
- 受講後、自宅でも継続して出来る内容のもの
- 日頃、利用者が子育ての中で関心のあるもの
- 子育て支援拠点施設を利用したことがないプレママ・プレパパ、拠点に行くことに高いハードルを感じている男性にも来所きっかけになるもの
- 利用者のニーズから、続けていくもの、変更していく又は、新しく取り入れるかを決める

講習等の実施

・ベビーマッサージ（オイルを使わず服を着たままで行う）
・リフレッシュ体操（育児に疲れた利用者がリフレッシュする）
・リトミック（わらべ歌、音楽に合わせて、親子で楽しむ）
・パパとあそぼ（父子で手遊び・絵本の読み聞かせ・季節のあそび）
・マザータッチ（フィーリングにて自身の体調変化に気づく）
・お寺 de ポピンズ（本光寺にてあそび、お寺の雰囲気を感じる）
・公園 de ポピンズ（年３回は公園でその他は今福連絡所・吹上連絡所を各月で利用しながら、手遊び・絵本の読み聞かせ・体を使った季節のあそび）
・いっしょにあ・そ・ぼ（不定期開催のクラフト）

【その他の子育て支援活動の実施】について

地域の実情、利用者のニーズ等に応じて、提案する拠点施設を生かした活動、拠点施設内にとどまらない近隣エリアにおける子育て支援活動等、どのような取組を行うのか記載してください。

・取組内容について

（例：●設置場所を生かした活動、●公民館、公園等に出向いた親子交流、●子育てサークルとの協働や連携、●高齢者、学生、地域団体との連携等）

1、毎月、地域のお寺・今福連絡所・吹上連絡所・気候に応じて今福公園にて講座を行う。
半年に１回コミュニティセンターにて『とびだせポピンズ』を開催する。

2、子・親・祖父母世代の三世代交流イベントを行う。

3、和歌山信愛大学、和歌山信愛女子短期大学、和歌山大学教育学部、和歌山県立医科大学保健学科・東京医療保健大学で学ぶ実習生を受け入れる。
その他医療・保育系以外の学部大学生のボランティアを受け入れる

4、民生委員主任児童委員主催の子育てひろば『ママのほっと広場』へ参加する

5、高松地区・今福地区にて社会福祉協議会が開催する厚生労働省推進の『まちの保健室』に参加する

・取組を実施することによる効果等について

1、広い場所でのびのびと過ごすことで、普段見られない子どもの体の動きや他児との関わりが見られ、子どもの成長を感じ取ることができる。
- 年齢を超えて親同士の交流の輪を広げるきっかけとなる。
- 子育て世代とは違う世代にも、拠点の存在を知るきっかけ作りとし、理解してもらえる事で、近所に住む子育て世代への拠点についての情報提供や、孤独に子育てをしている方の情報の提供が期待できる。
- プレママ、プレパパも拠点に来てもらえるようなきっかけを作れる。
- 父親や祖父母も参加しやすく、家族のふれあいの機会が作れる。

2、自分とは違う世代との会話を楽しめる。
- 子育て経験の話が聞ける事で、独りじゃない事、色々な子育ての考え方がある事を知り、「～でなければならない」との考えから解放され、「やってみよう」「おもしろそう」と前向きな子育ての楽しみを知る事が出来る。これらの効果から、人との信頼につながり、悩みや不安を打ち明けやすい心、環境を作る事ができる。

3、子ども達にとって親とは違う学生の若いパワーでの遊びやふれあいで、コミュニケーションを学び、自身の親だけでなくモデリングになる色々な大人と接することが出来る。利用者にとっても素朴な学生の疑問や質問に応えることにより、自身の潜在的な思いに気づくこともある。
また将来親になるであろう学生が、子どもとふれあい、子どもを持つ親の想いを知る事で、将来の仕事に活かすだけでなく、親になった後も健やかな子育てができることを期待する。

4、高松・今福・吹上・砂山地区の民生委員主任児童委員主催の子育て交流の場『ほっと広場』に参加。参加者へ手あそびや絵本の読み聞かせを行う他、参加者・民生委員へ子育て支援拠点施設の説明を行い、民生委員活動について拠点でもお知らせし、地域住民へ向けて情報提供、民生委員との連携を整えている。

5、厚生労働省が推進している地域共生社会の取り組み「まちの保健室」を行っている高松地区・今福地区の社会福祉協議会より参加の依頼を頂いた。
生まれ育った地域以外で地域住民の中へ入っていくのは、若い世代には大きな壁になっていると感じられる。そして地域住民にとっても、地域にどんな若い世代の住民がいるのかも分かりづらくなっている。住んでいる地域を知ることは、子育てをしている上で、地域住民の情報を得られる他、顔見知りが増え、子育て世代への理解に繋がり、子育てがしやすくなると考える。
各自治会、民生委員、婦人会、社会福祉協議会などと協力し合い、地域住民の方と、子育て世代への架け橋になれるよう参加を考えている。